

県内の学生製作 電動車両披露へ

地場企業が支援

県内の高校生や大学生らが地場企業の支援を受けて製作した小型電動車両を披露するコンテストが19日、長崎市星取1丁目のあたご自動車学校で開かれる。学生と企業との接点を設けることで若者の地元就職につなげるのが狙いで、学校や企業関係者の来場を呼び掛けている。



地場企業の支援を受け長崎総合科学大が製作した
小型電動車両
＝県庁

接点設け地元就職促す

地場企業や大学など約20団体でつくる実行委が2014年から毎年開いている。長崎市の信栄工業などがバッテリーなどの部品を車両1台当たり8万円相当をめどに提供し、学生らが製作。車は1人乗りの4輪で時速10〜20キロで走る。コンテストは午前9時40分〜午後3時まで開かれ、走行性や操作性を競う。

今回は長崎大、長崎総合科学大、久留米工業大、長崎工業高、大村工業高、佐世保工業高、鹿町工業

高、長崎南高、島田自動車（西彼時津町）、トヨタ自動車九州（福岡宮若市）から計12チームが出場する。

実行委は10日、県庁で長崎総合科学大の車両1台を披露。同大学院1年の山本瑤平さん（22）は「設計から材料集め、加工などものづくりを学ぶことができ楽しい。溶接技術も向上した。県内企業を知る機会にもなった」と話した。

（久保景吾）